

**住所** 〒547-0034 大阪市平野区背戸口 4-1-31**連絡先** ☎ 06-6702-0872 📠 06-6797-0361**校長** 中元 浩二 **開校** 昭和 13 年**URL** <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e751721>

教育方針



本校には、「健全」・「努力」・「親和」という校訓があります。また、校歌の中にも「はげむ子よ、元気な集い平野西校」・「はげむ子よ、仲よい集い平野西校」・「はげむ子よ、よい子の集い平野西校」と歌われています。この校訓、校歌に描かれた子どもの像を理想として、教育を進めていきます。

教育目標

豊かな心を持ち、生きる力を身につけた子どもの育成

重点目標

- ・子どもたちが生き生きとしている学校づくりを推進する。
- ・一人ひとりの子どもに応じた基礎的、基本的学習内容の定着に取り組む。
- ・基本的生活習慣を身につけ、児童の自主的な活動を通して、集団としての自覚と、人間尊重を基礎とした行動ができるようにする。
- ・健康生活の基本的な習慣を身につけさせる。
- ・進んで課題を解決する子どもを育てる指導法を研究する。

運営に関する計画

【概要】

- 子どもが安心して学校生活を送り、落ち着いて学習できる環境を維持し、保護者・地域に信頼される学校をつくる。
- 確かな学力の定着を図る。そして、けがを減らすとともに、基礎体力の向上を図る。
- ルールに基づいた組織的な生活指導により、道徳心や社会性の育成を図るとともに、互いに認め合い支え合う仲間づくりをめざす。
- 学習ルールの徹底や読書指導に重点を置くとともに、ICTの効果的な活用と主体的、対話的で深い学びを目指した研究活動を通し、研修を深め、学力の向上を図る。
- 明るく整った環境を維持し、健康・体力の保持増進をめざす。

【年度目標】

【安全・安心な教育の実現】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を82%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を91%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント(0.01)向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を69%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く]

校長先生からのメッセージ

大阪市立平野西小学校は、昭和13年平野第二尋常小学校として開校した伝統のある小学校です。学校の正門を入ったところに校訓が書かれた碑が建っています。その碑には、「健全」「努力」「親和」と刻まれています。これは、お互いが健康であり、努力を惜しむことなく勉学に励み、仲よく学校生活を過ごしてほしいという願いで当時製作されたと思います。

この校訓は校歌の中にも歌われています。

「はげむ子よ、元気な集い平野西校」「はげむ子よ、仲よい集い平野西校」「はげむ子よ、よい子の集い平野西校」

今も昔も私たちが望む子どもの姿にかわりはありません。

現在、本校が掲げている学校教育目標は、『豊かな心を持ち、生きる力を身につけた子どもの育成』です。校訓、校歌に刻まれた本校にかかわってきたみなさまの思いとともに教職員一同前進してまいります。

今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

校長 中元 浩二

R6年度「全国学力・学習状況調査」

国語	算数	平均正答率(%)
55	49	

●結果と概要／

- ・国語の平均正答率は、大阪市平均より11%、全国平均より12.7%下回っている。
- ・算数の平均正答率は、大阪市平均より13%、全国平均より14.4%下回っている。
- ・平均無解答率は、国語が大阪市平均より0.3%高かったが、全国平均より0.6%低かった。算数は、大阪市平均より1.6%、全国平均より1.4%高かった。この結果からも、特に算数で無解答率が高く、課題があることが分かった。
- ・学校生活については、「先生は、あなたのよいところを認めてくれると思う」に対する肯定的回答が92.2%と高く、大阪市・全国ともに上回っている。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に対する肯定的回答は74.4%で、大阪市を3.7%、全国を7.3%上回っている。これらの結果から、教職員の関わりが児童らに肯定的に捉えられていると考えられる。しかし、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対する最も肯定的な回答が8割に届かない結果であったことは、依然課題として残っている。

●取組の成果と課題／

【国語】漢字の書き取りの問題では、大阪市・全国ともに6ポイント上回る結果だった。これは、漢字学習において、ドリルの学習に加え、熟語集めや短文作りをする学習によって、単に漢字を「覚える」のではなく、「使える」ようにするための取組みを重ねてきたことの成果と考える。一方、課題として挙げられるのは、問題文の読み違いや読み落としが要因と考えられる誤答の多さである。特に、解答形式が「選択式」の問題にその傾向が見受けられる。誤答となる選択肢の文言は、「児童の固定観念」に添ったものが多い。つまり、「子どもならこう考えるだろう」という「ひっかけ」を誘う内容である。本文や設問文を十分に正確に読めていないと、そこにひっかけやすくなり、誤答につながっていると推測される。

【算数】「直方体の見取り図」についての問題では、大阪市・全国の正答率をわずかに上回る結果だった。また、「2つの数量の関係に着目し、それらの関係を用いて」答えを導き出す問題において、大阪市・全国との正答率の差は比較的小さかった。これらは、普段の授業において、図形や立式について、図をかくて視覚的に情報を整理し、考える活動を取り入れている成果であると考える。一方で、課題として、「わる数が小数である場合のわり算」において、わる数と商の大きさの関係や計算方法がまだ十分身につけていないことが分かった。改めて児童の基礎・基本の定着度を見直し、指導に生かす必要があると考える。

【質問紙調査】本校では、毎学期に1回「いじめといのちについて考える日」を設定し、全校および各学年・学級で、いじめやいのちについて考える学習活動を実施している。こうした、人権意識を高める組織的な取り組みを継続していくことで児童の人権意識を高めていきたい。

R6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (回)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)	合計 得点(点)
男子	13.98	18.81	40.00	42.30	52.69	9.69	140.94	16.72	51.84
女子	14.76	19.00	49.14	38.41	49.66	9.52	139.97	11.97	56.49

●結果と概要／

男子の結果では、体力合計点が大阪市を0.7P上回り、全国にあと0.5Pまで迫った。実技別では、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルランが、全国・大阪市ともに上回った。女子の結果では、体力合計点が全国を約2.5P、大阪市を約4P上回った。実技別では、上体起こし、長座体前屈、20mシャトルランが、全国・大阪市ともに上回る結果だった。男女ともに全国・大阪市を上回っているのは20mシャトルランで、持久力がついてきていることがうかがわれる。後述のような、体力を向上させるための地道な取り組みが実を結びつつあると考える。

●取組の成果と課題／

日々の学校生活において外遊びを奨励している。一昨年度から、新たな取り組みとして運動委員会の児童らが中心となり、昼休みにフラフープ大会を実施した。また、外遊びに消極的になりがちな冬季の休み時間に、講堂でなわとび集会を実施することで、児童の運動量を確保できるようにした。しかし、運動やスポーツに対する嗜好に二極化の傾向が見受けられる。運動やスポーツを好まない児童もできるだけ楽しんで参加し、取り組めるような働きかけを児童らとともに考えて企画し、運営していきたい。児童の運動能力に大きな偏りが生じないように工夫し、今までの取り組みを更新しながら、児童の体力、運動能力のさらなる向上に努めていく必要がある。

学校の特徴



地域と合同で行う防災訓練

地域や保護者、区役所・消防署と連携し、防災訓練を行っています。今年度も、パネルや物資展示、消防車の見学、防災グッズ作り、煙中、水消火器、負傷者搬送、心肺蘇生法等、学年に応じた様々な体験活動を実施した後、保護者の方々の引き渡し訓練を行いました。

楽しいクラブ活動

原則、毎月第2木曜日の6時間目、4年生以上の子どもたちが参加してクラブ活動を行っています。クラブ活動は全員必修で、13のクラブ活動に分かれ、子どもたちが自主的に計画を立て、楽しみながら異学年の交流を行っています。

1年間を通した児童会活動

1～6年の児童が学年をこえて、たてわり班を編成し、様々な交流をしています。コロナ禍のために活動の形態を変えて実施していましたが、コロナ以前の活動を取り戻しています。たとえば、毎週木曜日の児童集会は、校内放送でのみの実施から、運動場や講堂でのたてわり班活動を取り入れています。また、「1年生を迎える会」や「卒業生を送る会」は、オンライン中継から対面形式に、「平西フェスティバル」は、ペア学年の交流から各学級でお店を開き、たてわり班でお店巡りをする形態に戻し、いずれも全校で実施する形となりました。

